文京区議会民主クラブの、平成１９年度決算における態度表明を行います。

平成１９年度予算はＮＰＭ予算編成の最終年度となり、これまで成果志向に基づいたシーリング方式や内部努力等によって、均衡財政が達成し実質収支比率も２年連続特別区平均を下回る結果となりました。また、財務指標の中でも懸案であった経常収支比率が３年連続で７０％台と適正水準に改善されたことは、高く評価をするところです。更に、新行財政改革推進計画の進捗状況については、着実に成果を上げていると共に、現下の社会情勢に見合った中間の見直しに着手され、不断な行財政改革に取組まれたことについても、その実現に向けて大いに期待をするところです。基金につきましては、均衡財政の実現により一定金額が積まれてはきましたが、区有施設の改修や今後想定される将来需要に対応するべく、その活用に関しては計画的に実行されることを望むものです。

次に、歳入についてですが、国の税制改正に伴う三位一体改革や個人住民税フラット化の影響はあったものの、区民税の高い収納率や財政調整交付金等の増加や、これまでの内部努力も相俟って安定的な財源の確保が図られたことは一定評価をし、今後も歳入の確保には多角的な見地から不断の努力を望むものです。

歳出については、新行財政改革推進計画見直しに沿った施策の展開を中心に、特に民間業務委託の推進や職員数の適正化、そしてシステム関係経費の削減には引続きご努力をお願い致します。また、職員の育成に関しては、メンタルチェックを含め文京区職員育成基本方針の着実な遂行を望むものです。その他についてですが、子育て支援全般に亘る施策の拡充を中心に、宿泊施設の見直しや商店街振興、高齢者・障害者施策等、我が会派から指摘させて頂いた事項につきましては、可能なものか

ら実現を図られますようお願いするところです。

　最後に、本区の財政状況が適正水準に回復してきた今、引続いての行財政改革の着手は勿論ですが、今後は文京区政の新たな予算編成の理念でもある「子どもたちと高齢者への応援歌」を強力に推進すると同時に、平成２１年度からは「守りから攻撃に打って、スリムでたくましい区政」に向けて、積極的な施策展開に取組んで頂く事を強く要望するものです。

　以上の意見を付しまして、文京区議会民主クラブは平成１９年度一般会計、国民健康保険特別会計、老人保険特別会計、介護保険特別会計の４会計決算を全て認定致します。